

議事録

会議の名称	平成28年度第2回加東市総合教育会議
開催日時	平成28年11月29日(火) 午後5時～午後6時17分
開催場所	加東市役所 5階 501会議室
<p>議長の氏名 (市長 安田正義)</p> <p>出席及び欠席委員の氏名</p> <p><出席委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員長 大島 巧 男 ・教育委員長職務代行者 藤本 洋 二 ・教育委員 神崎 芳 美 ・教育委員 浅川 る り ・教育長 藤本 謙 造 <p><欠席委員></p> <p>なし</p>	
<p>出席した事務局職員の氏名及びその職名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・副市長 吉田 秋 広 <p><協働部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・協働部長 芹生 修 一 ・企画協働課長 長谷川 茂 ・企画協働課副課長 前中 公 和 ・企画協働課主幹 平野 好 美 <p><教育委員会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育部長 堀内 千 稔 ・参事兼学校教育課長 登 光 広 ・教育総務課長 大橋 博 英 ・教育総務課副課長 柴崎 俊 之 ・教育総務課副課長 片嶋 美 紀 ・生涯学習課長 陰山 芳 輝 ・人権教育課長 大西 祥 隆 ・中央図書館長 大橋 正 明 	
<p>1 議 題</p> <p>(1)加東市教育大綱における各施策の取組状況について</p> <p>2 会 議 資 料</p> <p>(1)加東市教育大綱における各施策の取組状況</p> <p>3 会議の経過</p> <p>⇒別紙「平成28年度第2回加東市総合教育会議・会議の経過」のとおり</p>	

(別紙) 平成28年度第2回加東市総合教育会議・会議の経過

発言者	会議の経過 / 発言内容
事務局	<p>1 開 会</p> <p>平成28年度第2回加東市総合教育会議を開催させていただきます。 私、本日の司会進行を務めます協働部企画協働課の前中と申します。よろしくお願ひいたします。 初めに、加東市長安田正義が御挨拶を申し上げます。</p>
市長	<p>2 市長挨拶</p> <p>皆さん、こんにちは。今年度第2回目でございますが、総合教育会議ということで御参集いただきました。心からお喜び申し上げます。</p> <p>平成28年度第1回を7月22日に開催し、このときをもって加東市教育大綱を策定しましたが、教育振興基本計画の中にございます基本理念及び基本方針、それから9つの重点的に取り組む教育施策を加えて加東市の教育大綱としたところでございます。その重点的に取り組む教育施策の9つの取組でございますが、子供たちの「確かな学力」と「豊かな学び」、そして小中一貫教育の推進、小中一貫校の整備方針、教育環境（学校施設）の充実、英語教育の推進、食育の推進、ICT機器を活用した教育の推進、そして兵庫教育大学との連携強化、インクルーシブ教育システムの確立ということでございます。</p> <p>先般ICT教育の全国首長会議というものがございまして、そこに参加し、いろいろな情報を聞いてまいりました。一つには、公立学校におけるICT、情報化のランキングが発表されております。日経BP社というところが発表しておりますが、佐賀県は非常にICT教育が進んでいるということでございました。小学校の場合では上位10位以内が9校、1位の武雄市をはじめ、2位は備前市でしたが、後の8校は全て佐賀県でございました。加東市、兵庫県の状況等はどうなのかということでございますが、インフラの整備、それから教員の指導力といったものをいろんな指標として統計をとっておるのですが、インフラ整備となりますと、児童・生徒用のパソコンの導入状況、あるいは電子黒板の整備率ということでございました。教員の指導力については、ICTを活用する能力、あるいは授業中にICTを活用して指導する能力等はどうなのかということでございましたが、教員の指導力という部分につきましては、県下統一の率でございました。いわゆるインフラ整備については自治体ごとにデータが出ております。加東市は総合では、小学校が82.7%、中学校が77.6%、インフラ整備は、小学校86.2%、中学校86.5%、教員の指導力につきましては、兵庫県の数値で小学校79.2%、中学校68.7%という状況でございまして、小学校におきましては全国58位、中学校が全国154位で、県内で見ますと小学校、中学校それぞれ1位ということでございました。</p> <p>ただ、私はこのときに感じたのですが、佐賀県が非常に進んでおるということでございますけれども、佐賀県の子供たちの学力がどうなのかというところを見たときに、このことだけで物事を判断するという事はどうなのかなという思いもしましたし、また加東市が県下で1位だったということを抑えましても、そのことが本当に加東市の子供たちの学力に結びついているのか、やはりそのことを大事にしなければならないのではな</p>

	<p>いかという思いがしました。特に、インフラ整備は、お金を使えばどんどん整備率は上がっていくわけですが、現実には子供たちの学力にどう結びついていくか、そこを重要視しなければならないのではないかという思いで、特に今申し上げましたけれども、1位だからどうということではなく、情報としてお伝えをしたということでございます。</p> <p>それから、インクルーシブ教育の関係でございますが、来年度から発達サポートセンターをスタートさせる準備のための予算をこの11月臨時会で決定いただきました。これから順次、開設に向けて取組を進めていくところであります。今日のこの会議におきましては、教育大綱の実行性及び実効性を確保するというところで、やはり点検、評価、検証することが大事だろうというふうに思っております。そこを皆様方とともに議論できればというふうに思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。</p>
<p>事務局</p> <p>議長 (市長)</p> <p>教育総務課長 (大橋)</p> <p>人権教育課長 (大西)</p>	<p>3 協 議 (1) 加東市教育大綱における各施策の取組状況について</p> <p>それでは協議に入らせていただきます。</p> <p>運営要綱第4条第3項の規定によりまして、会議の議長は市長をもって充てるとありますので、これからの会議の進行は市長にお願いいたします。</p> <p>それでは、早速でございますが協議に入らせていただきたいと思います。</p> <p>まず、協議の1番として、加東市教育大綱における各施策の取組状況ということで事務局のほうから御説明を申し上げます。</p> <p>今年7月に策定しました加東市教育大綱の基本理念については、人間力の育成でございます。</p> <p>そして、基本方針が5つございます。小中一貫教育を通して自立した子供を育む学校教育の充実など、ご覧の5つ、そして、これらは第2期加東市教育振興基本計画と同じとなっております。</p> <p>この教育大綱では、重点的に取り組む教育施策というものを設けております。計画の対象を、子供たちの教育に重点化しまして、加東市の特性を踏まえた施策として、9つの施策を掲げております。1番の子供たちの「確かな学力」と「豊かな学び」から、9番のインクルーシブ教育システムの確立となっております。</p> <p>これから、重点的教育施策の取組状況について順番に、人権教育の推進から小中一貫教育の推進、学校施設の充実、英語教育の推進、食育の推進、ICT機器を活用した教育の推進、兵庫教育大学との連携、インクルーシブ教育の取組の順に報告させていただきます。</p> <p>まずは、人権教育の推進ということで、人権教育課から報告いたします。お願いします。</p> <p>人権教育の推進というところでは、2つの項目を挙げてございます。</p> <p>1つは、小中学校の人権教育講演会、もう一つが、今年度から取り組んでございます幼児期の人権教育事業でございます。</p> <p>まず、1点目の小中学校の人権教育講演会におきましては、平成25年</p>

度から市内の小学5、6年生、それと中学生を対象に人権教育に関する講演を実施してございます。この事業については、命の大切さや人権教育の心を育むとともに、夢を持つすばらしさを伝えることを目的とし、今年度で言いますと11月26日の土曜日に東条文化会館で開催された東条中学校の人権教育講演会で今年度の事業は終了してございます。今回行っております6会場での子供たちのアンケートを見ると、周囲への思いやりや、前向きに考えるきっかけづくりなど、こちらのほうが思っております目的どおりの事業になっているというふうに感じているところでございます。

続きまして、幼児期の人権教育事業ですが、神戸大学の鈴木正幸名誉教授が提唱された、絶対人権感覚、違いを違いと思わない感性でございますが、これを事業化した和歌山県の人権啓発プログラムを活用いたしまして、市内で講師となる保育園や幼稚園の先生の養成、それと保護者、それから3歳児から5歳児の子供たちに対するプログラムを今年度3会場で実施しました。指導者セミナーにおきましては、開催後、各園から実際に今年度からすぐに取り組みたいということで、既にセミナーで使用いたしました音楽やイラストなどの使用申請がありました。引き続き来年度も実施できるというような実感をしてございます。

親子セミナーにおきましても、全ての参加された親御さんからよかったというアンケートを受けておりまして、次年度以降は今年度のそれぞれの施設での体験だけではなく、幼稚園、保育園へ出向いての体験というふうな形での展開も考えているところでございます。

以上、人権教育の推進についての説明とさせていただきます。

教育総務課長
(大橋)

続きまして、小中一貫教育の推進につきまして、学校教育課、教育総務課から報告させていただきます。

参事兼
学校教育課長
(登)

まず、5ページにつきましては学校教育課のほうから、6ページ以降の小中一貫校の整備は教育総務課のほうから御報告をいたします。

ソフト面のほうでございます。

平成33年度の東条地域小中一貫校の開校に向けまして、開校準備委員会を設立し、地域や保護者、学校関係者との調整を現在行っているところです。また、ソフト面といたしまして、教員の組織でございますが、加東市教育研究所員会や教科等研究部会による小中一貫教育のカリキュラム、またふるさと学習、仮称、かとう学としておりますが、副読本の編集に着手するとともに、中学校から小学校、小学校から中学校への出前授業の拡充などと合わせまして、児童・生徒間の交流活動等を計画的に実施しております。

まず、1つ目の教職員の先進校視察でございますが、10月4日と10月6日に京都市立凌風学園を視察いたしました。先ほど言いました各教科の代表者と研究所員の教職員約50名が参加しました。なお、これまで凌風学園を含めましてさまざまなところに教職員が視察に行っておりまして、正規の教職員218名中現在約90名が視察を終えたことになっております。なお、育児休業等の取得者がございますので、正規教員の半数は視察に行っており、その施設設備の有効性やそれを活用した教員活動について視察を行っているところです。

2番目の、教職員基本構想検討会というのが、そこの写真に載っている

ものですが、10月18日に教員のプロジェクトチームを立ち上げまして、視察に行った教員たちが中心になって、先進校から取り入れるべきところ、平成33年度開校の小中一貫校に取り入れるべきところを話し合っている様子でございます。KJ法という手法をもちましてグループごとに話し合いをして、最後、交流をして教職員の意見としてまとめました。例えば、児童・生徒の自然発生的な交流を生むスペースの大切さであったり、英語や社会科など教科指導の充実に向けた専用教室の必要性など、また地域住民が利用しやすく交流できる施設、またハード面ですけれども、掃除や修繕など施設管理上の配慮の必要などが事務職員等から出ている意見です。こういったものをまとめまして、開校準備委員会で地域の方々へ示し、地域の方々との意見をすり合わせまして基本構想をつくり上げているところでございます。

次に、小中一貫教育教科等カリキュラムの作成ですが、先ほど申しましたように管理職による方向性を決定する会議にあわせまして、各教科ごとに小学校と中学校の教員が共同してカリキュラムの作成に今当たっているところでございます。そのほか、備品整備など教育環境整備に係る事務職員の部会も特別につくりまして、そちらのほうも今動いているところで

す。なお、教職員研修ですが、夏期研修会ということで、夏期休業中に加東市の全教職員が一堂に会しまして研修会を開催しております。今年度は8月2日に先ほど視察を行った凌風学園の稲田学園長をお招きしまして講話を聞いております。なお、昨年度は同じく私どもが先進校として位置づけています高松第一学園の川上学園長の講話を聞いて、2年連続という形にしています。なお、その午後には、兵庫教育大学の先生によりまして、先ほど言いましたカリキュラムづくり等の研修も行っております。

最後に、出前授業でございますが、昨年度は英語を中心に行ったのですが、今年度については社会、英語、美術（図工）、体育の授業を小学校の教員と一緒に中学校の教員が共同研究をしまして小学校で実施しているところです。なお、次年度は小学校から中学校への出前授業ということで、小学校の教員が中学校へ実際に行き、T1、T2という複数指導のような形で行うことで拡充を考えております。

5ページにつきましては以上です。

教育総務課長
(大橋)

続きまして、小中一貫校の整備につきましては、教育総務課のほうから御報告いたします。

ただいま東条地域小中一貫校開校準備委員会というものを開いております。開校準備委員会は、第1回目を6月15日、そして7月13日と2回開いております。委員長を選出や今後の活動について協議いたしました。

開校準備委員会の下には3つの専門委員会がございます。施設整備、学校運営、学校教育の3つの専門委員会がございます。そして、今表示しております教室等設計部会は、施設整備の委員会の下にあります部会の名前でございます。そして、その下、通学路等安全対策部会は、学校運営の専門委員会の下に部会ということでやっております。

まず、専門委員会ですが、第1回目を8月9日、第2回目を9月13日に開催いたしました。初めての方もございますので、合同で先進校の視察ということで8月31日と9月5日、2回に分かれまして京都市の凌風学園を視察いたしました。それを踏まえて9月13日に専門委員会を開きまして、それが終わった後に教室等設計部会を開いております。教室等設計

<p>参事兼 学校教育課長 (登)</p>	<p>部会は10月12日、11月9日と3回開催しております。</p> <p>そして、通学路等安全対策部会につきましても、9月13日の専門委員会の後に第1回目を開きまして、10月11日、11月11日と、現在3回開いております。</p> <p>開校準備委員会とは別に教育委員会では先進校の視察を行っております。能勢町にあります能勢ささゆり学園、京都市の凌風学園、高松市の高松第一学園、そして広島県の府中学園などを視察しました。</p> <p>今後の取組予定でございます。教室等設計部会ですが、第4回目を12月5日に開きまして、基本コンセプト案を策定し、その後専門委員会や開校準備委員会に諮りまして教育委員会へ報告という流れで動いております。この基本コンセプトをもとに小中一貫校の基本方針を作成いたします。この基本方針をもとにプロポーザル、基本設計、実施設計というふうな形で考えております。通学路等安全対策部会に関しましては、3回開きましてほとんど案が決まっております。あと詰めの部分がありまして、その後専門委員会、開校準備委員会へと諮りまして、教育委員会のほうへ報告ということで動いております。通学路等安全対策部会は通学方法や通学路についての検討をいただいております、スクールバスの運行方針案をつくっていただいております。</p> <p>続きまして、学校施設の充実ということで現在トイレの洋式化工事を行っております。平成28年度学校施設環境改善交付金事業ということで、現在社小学校、滝野南小学校、三草小学校で、国の補正予算がつく予定でございます。工事内容は、和式トイレを洋式トイレへ変更、そして床を乾式へ、そしてLED照明へ変更というようなことを予定しております。この工事で、平成28年度末の加東市学校施設におけるトイレ洋式化率は50%となる見込みでございます。</p> <p>今後の目標ですが、学校施設のトイレの洋式化工事は今年度で一旦は終了とさせていただきます。今後は小中一貫校の整備に合わせて実施しまして、滝野地域小中一貫校開校時には80%以上となるように整備する予定でございます。</p> <p>続きまして、英語教育の推進につきまして以後は学校教育課から報告をいたします。</p> <p>英語教育の推進につきましては、中学校卒業時に全ての生徒が英検3級を取得して、日常会話を臆せずできる子供たちを育成するということが最終目標にしております。現在、実績としましては平成27年度ですが、英検3級を取得している中学3年生は卒業時で29.4%という数字になっておりまして、県が15.5%、国が18.9%ということで、比較としましては高い率になっております。ただ、英検3級を受けたら通るだろうと思われる数字については約4割と、まだ半数には至っておりません。これが最終そういった形になればということで、加東市の特色としまして英語教育の推進を一つ大きく掲げまして取り組んでございます。</p> <p>一番上に書いていますのは、いわゆるALTの配置ということでございます。語学(英語)指導員派遣事業という名前で事業を実施しております。</p> <p>2つ目の、かとう英語ライセンス制度については、ライセンスブックやライセンス検定等、加東市独自のものを作成して実施しているというところですが、あわせまして、英検の検定料の助成ということで、年1回子供たちが受検する検定料の助成を行っております。</p>
-------------------------------	---

こういった取組が県内でも初ということでPRをさせていただきまして神戸新聞に掲載され、教育専門誌の日本教育新聞の取材を受けて掲載していただいております。そういった反響もありまして、丹波市などから問い合わせがあり、明日は京丹後市の指導主事が視察に来られるということで受け入れをいたします。それ以外にも、ここには記載していませんが、わくわく英語村、これは、長期休業中にALTと一緒にオールイングリッシュでさまざまなことを体験するというをやっているのですが、今年度については姉妹都市オリンピア市へのビデオメッセージということで、各中学校の学校生活について英語で紹介したビデオレターを作成して、加東市国際交流協会を通じてオリンピア市へ今送っているところです。また、教職員の海外視察研修については、昨年度に引き続きまして韓国を視察いたしまして、先進的に取り組んでおります、ICT教育と外国語教育といったところの視察を行いました。今年度については、昨年度はテグ市の教育大学附属学校でしたが、テグ市立の小・中学校と英語教育グローバルステーション等、民間の施設もごございますので、そういったところを視察しました。なお、視察内容を踏まえた授業研究会を12月初旬から開催し、その後報告会や報告書の作成ということで教職員への普及に努めてまいります。

次に、12ページをお願いします。

食育の推進でございますが、食育推進事業としまして平成21年度から研究校を指定しまして研究に取り組んでおります。栄養教諭や栄養士を有効活用し、地域の人や食材、食文化を体験的に学ぶ食育を進めております。また、楽しみのある学校給食特別メニューということで、地産地消で特色のある献立内容を考案し、魅力ある学校給食を提供することで食への関心を高めております。月に1回特別メニューとして給食だより等でもPRをしております。加東市産のイチゴやなす、桃ゼリー、それと明日ですが、社高校生が考案した特別メニューを実施するというので、社高校とも連携して取り組んでございます。

11月17日のかとう和食給食の日でございますが、先般新聞記事にも掲載されましたが、11月24日のかとう和食の日に向けまして、その1週間前ということで学校給食で和食給食を提供いたしました。地域住民、社高校生活科学科、兵庫教育大学の学生等が各学校に入りまして、栄養教諭とともに子供たちと一緒に和食のよさを伝える活動を行いました。

続きまして、13ページになります。

先ほど市長からもお話がありましたように、ICT機器を活用した教育の推進ということで、ICT教育推進事業といたしまして研究指定校を2校指定して、継続的に研究しております。平成24年度から指定してございまして、これまで6小学校、3中学校、12校中9校を指定したということで、こういったことを通じまして教員のICTの活用能力が伸びているということにつながっていると考えております。なお、今年度は米田小学校と鴨川小学校でタブレットを使った学習ということで、パソコン教室の据え置きデスクトップを更新する際に、デスクトップの画面が外れるタブレット型に更新していくことによりまして、いろいろなところへ移動させて、例えば米田小学校では体育館へ移動してボールゲームをしている自分たちの姿をそこへ写して、自分たちの作戦通りに動いているかどうかを後から振り返る等、ICTならではの教育活動を行っております。

続きまして、ICT機器を活用した授業の充実ということで、デジタル教科書、大型電子黒板を活用した授業を継続的に取り組むことによりまし

て、日常的とまでは言いませんが、できる限り授業の中で使う教員たちが増えておるといことは事実でございます。ただ、機器でございますので、使い勝手というところではどんどん新しくなっていますので、そういった要望も上がってきていることは実際でございますが、ICT教育が子供たちにどのような力をつけていったかというところが大切でございますので、次年度以降ICTの研究指定校には子供たちの学力とかプレゼン能力や興味、関心というようにところに視点を当てまして、子供たちの伸びについての研究をしたいと思っております。今、ハード面の整備も十分できてきた、指導の力もできてきたというところで、それが整いましたら、次は子供たちにどういう力をつけさせていくのかというところが大切ですので、いよいよその段階に入ってきたということで喜んでるところです。

続きまして、14ページになります。

加東市の特色としまして、兵庫教育大学という教育の専門性を有する大学があるということ加東市の強みでございます。日常的に学生なり大学の教員等を学校現場に入れましてさまざまな教育活動の充実に努めています。

最初に書いています学習チューターといいますのは、学校の教育活動支援ということでボランティアステーションを通じまして登録した学生を各学校の要請に応じて派遣をするということで、昨年度は実績で延べ834名が入っております。なお、御存じのように自然学校の4泊5日の宿泊体験の指導補助員としまして、昨年度は145名、加東スタディライフ、夏期休業中の自主学習室ですが、ここにも指導補助員としまして延べ90名、適応教室としまして、不登校児童・生徒の学外の教室でございますが、ここにも指導補助員ということで122名、また生涯学習事業としまして、小学生チャレンジスクールや地域子ども教室には延べ80名ということで、現在学生の力をかりなければうまく回らないぐらいの兵庫教育大学の貢献度になっておりますが、兵庫教育大学との話の中では、学生をOJTで私どもが活躍の場を提供しているのですが、そこに耐えられる、しっかり対応できる学生を育てていただきたいということで兵庫教育大学にも取り組んでいただいているところです。兵庫教育大学との連携は以上です。

15ページをお願いします。

最後に、インクルーシブ教育の取組ということで、市長のお話にもありましたように次年度、発達サポートセンターを開設するというので、そこに書いております相談事業や巡回相談事業、療育事業等、さまざまな事業を今まで関係課ごとにやっていたのを一元化しまして、市民にとって特に障害をお持ちの子供の保護者であったり、御本人にとってワンストップ型のサービスを提供するために一元化します。先般準備の予算がついたところでございます。ここでは、幼児期から就労までを見据えました支援体制を構築するというので、先ほど言いました教育、福祉、保健、就労等を集約して、現場に出向いての相談や支援を行うことを充実させてまいります。

なお、教諭以外にも学校現場にはスクールアシスタントや介助員、生活指導補助員等支援を要する子供たちに特別に配置を提供している教員に準じる方々がいらっしゃいます。これについても北播磨管内では特筆する人数を配置いただいていること、予算をつけていただいていることに感謝を申し上げたいと思います。

<p>教育総務課長 (大橋)</p>	<p>学校教育課については以上です。</p> <p>以上で報告を終わらせていただきます。</p>
<p>議長 (市長)</p>	<p>今、施策の取組状況ということで課長から説明を申し上げました。ただいまの説明につきまして御意見、それから御質問等があればお聞きしたいと思います。</p>
<p>教育委員長 (大島)</p>	<p>まず、加東市にはケーブルテレビがありまして、先ほど人権教育課のほうから小・中学校で研修会を開いていろいろな方をお招きして人権教育を展開しておりますという話がありましたけれども、見落とした方、あるいはそういう情報を知らなかった方にケーブルテレビで総合的に放送してくれています。非常にありがたいことだと思うんです。教育の世界というのは、地域の皆様方にいろんな情報をお知らせするということが大事で、保護者の皆様方、あるいは周囲の皆様方がケーブルテレビを見られて、加東市はこういういいことをやっているということを十分知っていただくことが大事なことだと思うんです。そういう意味でケーブルテレビと教育委員会とは連携する必要があると、情報提供をする必要があるなという思いをいたしました。</p> <p>私、個人の話になりますが、12年間加古川市の教育委員会におりまして、それで今加東市の教育に関係させていただいているけれども、学校訪問というのがあります。そのときに、各学校へ教育委員として学校訪問させていただいて、授業を見せていただいたり、校長や教頭から学校の様子について説明を聞く機会があります。一番感心したのが加東市の教育でした。これはすばらしいなと思いました。加古川市ではない部分がいっぱい加東市にあるんです。それにかかわって、加東市の先生方の資質のすごさを思いました。もちろん、人数は加東市は今二百数名ですけど、加古川市は800人から1,000人いるんです。ピンからキリまでです。そして、確かに県下から授業を見に来られるようないい先生方もいらっしゃるけれども、相対的に加東市の先生方は前向きで、一生懸命やっただいている。そして、資質の高さも感じます。だから、加東市は先生方の資質が非常に高いという思いをしたのを覚えています。今でも毎年学校を訪問させていただくけれども、資質の高さというのを感じます。</p> <p>それから、もう一点、先日、平成28年度近畿市町村教育委員会研修大会がありまして、私どもの教育長が兵庫県の代表ということで大学との連携という話をしていただきましたが、ほかの近畿の都道府県の会長さんやいろいろな方から加東市はすごいですねという話をいっぱい伺いました。やはり、大学との連携がしやすいという環境の中では、非常に恵まれた環境にあるということです。だから、ああいう場で加東市は大学と連携しながらやっているということを紹介することもいいことだと思います。今日学校教育課長から京丹後市から視察に来られるということをお聞きしましたが、うちの教育長がそこで発表されて、それやったら私たちも勉強しようということで視察にこられるとお聞きしました。やはり加東市がこんなに恵まれた環境の中で、その環境をうまく利用しているということを皆さん方に十分に知っていただくいい機会ではなかったかと思います。教育長、そのときは御苦労さまでした。</p>

議長 (市長)	<p>今、委員長のほうから加東市の特徴的なことのお話をいただきました。</p> <p>私自身も実は研修や首長会議などいろいろなところで、まさに先ほど申し上げたICTの関係は、私自身は進んでいるとは思いますが、どの程度なのか全くわからないところがありました。先にお出かいした芦屋市の教育長からすごいというお話を伺って始めて状況がわかったというようなことです。教員の資質も非常に高いということでございますけれども、そのあたりも含めて委員さん方にいろいろな御意見を是非この機会にお伺いできればというふうに思います。どうぞ御議論を深めていただければというふうに思いますので、ざっくばらんに思っておることをずばりこの場でいろんなこととお話いただければと思います。どうぞよろしくお願い致します。</p>
委員	<p>教育に係る予算については格別の配慮をいただいておりますが、いつも教育委員会の中ではありがたいという話をしてはいるのですが、各学校を回らせていただいている状況の中では、全体的には非常にいい教育環境の中で子供たちも頑張っているというふうな感じを受けております。</p> <p>特に市長からもお話がありましたICTの整備、それと活用につきましては、先ほど学校教育課長から話がありましたけれども、毎年度ICT教育研究校を2校指定しており、毎回視察をさせていただいておりますが、今年度も2校指定校の研究発表があり行かせていただきました。その中で大分いろいろな形で活用いただいているという印象は受けたのですが、後で、筑波大学附属小学校の先生が実際に小学校で教員をされている中でのICTの活用方法等について講演があったのですが、あくまでICTは一つのツールとして活用していくのがいいのだと。ICT機器としては、大型テレビや電子黒板、プロジェクター、デジタルペンがありますが、今回はデジタルペンを活用して発表があったのですが、すぐに使いこなすというのはなかなか大変なようですが、こういう研究発表会に全員の先生が出向いて状況を見たり、勉強していただいたりして、だんだんよくなってきているのではないかと思います。しかし、その講師先生のお話からすれば、あくまで一つのツールであり、学習する生徒の立場に立った使い方をこれからももっともっと研究していく必要があるのではないかと思います。各個人によっても違うため、なかなか実際に使いこなすというのは難しいこととは思いますが、せっかくこれだけの整備をさせていただいており、順次よい方向で活用を進めていただいていると私自身も感じております。</p>
議長 (市長)	<p>何かいいような話ばかりですが、苦言というものもあってもいいのではないかと考えております。</p>
委員	<p>7月の会議のときに食育について市長にお尋ねしたのですが、10月に滝野東小学校で食育の研究がありました。初めて食育の研究会に参加させていただきました。食育の研究というのは幅広く大変だろうなという思いで校長先生のお話を聞いたのですが、まず研究指定というのを受けた時点で、先生方自身が食というものについて考えるようになったということです。そうすると、先生方の思いが子供たちへつながって、その子供たちが食べることは大切なんだという思いが保護者の方に伝わっていくということが、まず第一歩かなというふうに言われました。ものすごく幅が広いテーマなのですが、やはり食について考えようという機会を与えていただい</p>

	<p>たのはいいことだと思います。テーマは広いのですが、地道にできることからやっていただけたらと思います。</p> <p>それと、もう一つなのですが、先ほど説明を聞いて、今まで思わなかったのですが、大学との連携です。私は子供たちが附属小学校だったので、やはり大学生とのつながりがすごくたくさんありました。いろいろなところで行事ごとに大学生がかかわってきてくれて、先生以上に大学生とのつながりが子供たちにすごく影響があったと思うのです。加東市としても兵庫教育大学が近くにあるので、こんなにありがたいことはないなど、今気がつきました。これもうまく使って行ってほしいなと思います。</p> <p>今説明していただいた教育大綱については、これまで教育委員会で取り組んできたことやこれから取り組むべきものの内容が入っていて、よくできているなと思いました。前回の会議のときにも言ったのですが、インクルーシブ教育の取組というのがこれからは大切だと思います。幼児期、小学校、中学校、高校、社会人と切れ切れになっているものを加東市が発達サポートセンターを設立することによって、一元化して、発達障害がある方の相談に乗れるようになるということは本当に大切なことだと思います。先ほど市長が予算措置されたと言われたのですが、やはり人的配置が一番大切になると思います。専門の方と相談することによって相談した人の将来が開けてくるということもあると思いますし、いろんな問題を抱えていると、なかなか保護者のほうも相談できにくいというものもあると思いますので、人的配置をしっかりとしていただき、発達サポートセンターをつくるだけではなく、中身のほうをしっかりとしていただきたいと思います。</p> <p>今後も教育に関しては国の施策も少しずつ変わってくると思うのですが、生きる力としての確かな学力と豊かな心や、豊かな学びというのは変わらないものであり、これが一番基礎となっていると思うので、いろいろ取り組むのはいいと思うのですけれど、そこだけはしっかりと押さえて取り組んでいていただきたいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>今説明していただいた教育大綱については、これまで教育委員会で取り組んできたことやこれから取り組むべきものの内容が入っていて、よくできているなと思いました。前回の会議のときにも言ったのですが、インクルーシブ教育の取組というのがこれからは大切だと思います。幼児期、小学校、中学校、高校、社会人と切れ切れになっているものを加東市が発達サポートセンターを設立することによって、一元化して、発達障害がある方の相談に乗れるようになるということは本当に大切なことだと思います。先ほど市長が予算措置されたと言われたのですが、やはり人的配置が一番大切になると思います。専門の方と相談することによって相談した人の将来が開けてくるということもあると思いますし、いろんな問題を抱えていると、なかなか保護者のほうも相談できにくいというものもあると思いますので、人的配置をしっかりとしていただき、発達サポートセンターをつくるだけではなく、中身のほうをしっかりとしていただきたいと思います。</p> <p>今後も教育に関しては国の施策も少しずつ変わってくると思うのですが、生きる力としての確かな学力と豊かな心や、豊かな学びというのは変わらないものであり、これが一番基礎となっていると思うので、いろいろ取り組むのはいいと思うのですけれど、そこだけはしっかりと押さえて取り組んでいていただきたいと思います。</p>
<p>教育委員長 (大島)</p>	<p>学校教育課長に聞きたいのですが、英語教育の推進については、加東市の目玉にしてもいいのではないかと思います。新聞でかとう英語ライセンスブックをつくったとか、わくわく英語村とか、すばらしい取組をしていただいております。学習指導要領が変わり、小学校でもかなり英語を導入しようということになっていますけれども、現在小学校の先生方で英語の免許をお持ちの先生はどれくらいおられるのでしょうか。</p>
<p>参事兼 学校教育課長 (登)</p>	<p>英語の免許を持っている小学校の教員は7名です。しかし、英語が教科となったときでも、外国語活動については、免許を保有しているかどうかについて直接の制限はかからない予定です。現在、教員採用試験のときに一定の英語の資格を小学校教員も求められるような全国的な動きになっていますので、ある程度のところまでくると思います。ただし、先ほど言いましたように小・中学校の兼務発令であったり、出前授業ということで専門的な英語というものに触れなければいけないだろうし、ALTの果たす役割も小学校ではますます大きくなったときに、小学校で専門的な英語を教えるよりは、ALTに専門的なところの会話等は任せて、教育活動として授業を成り立たせるぐらいの英語に対する教員の理解であったり、授業の企画力というのを高めていく必要があるのではないかと考えていま</p>

<p>教育委員長 (大島)</p>	<p>す。 英語といったいろいろな複数免許を持っている小学校の教員、要は中学校免許を持っているような者も、今までもお願いをして入れていただいておりますし、今後とも配置をいただきたいということで県教育委員会のほうにも頑張ってもらって働きかけをしていこうと思っております。</p> <p>この間、県教育委員会の教職員に聞いたのですが、採用試験で合格になっている新任の先生については、やはり英語免許を持っている人が多い。それから、例えば大阪から兵庫県への異動を希望する先生方はどうかと聞いたところ、やはり両方の免許を持っている人が有利なようです。これからは多分文部省も力を入れているように、英語教育の推進というのが目玉になってくるのではないかと思いますので、加東市も目玉にしたらいかがかなと思います。</p>
<p>議長 (市長)</p>	<p>先ほど委員のほうからの発達サポートセンターの件でございますが、その中身が大事だということで、当然センターを立ち上げただけでは意味がなく、中身がどうかということだというふうに思っています。相談事業、巡回相談事業、それから療育事業、研修事業といったところが主な内容ということで、人事のための予算も確保できたと申しあげましたけれども、実際の開設は来年の6月ぐらいという予定をしております。職員体制については、今7名というところで何とか確保できないかと思っております。そういう中で支援を要する子供たちにきっちりと関わっていきたくと思っております。</p>
<p>教育長 (藤本)</p>	<p>重点的に取り組む教育政策について説明をさせていただき、私もそれなりの取組はやっていっていると思っております。そうした中で市長がおっしゃったように、点検、評価という面をどういうふうにしていくのかということでございますが、教育の中で数値化していくのは非常に難しいわけですが、やはり学んでいる子供たちの姿をきっちりと評価していくのが一番だろうというふうに思っています。そのために、施設設備、ICT機器の充実等々もそうですが、それをうまく活用していくのは教職員であって、子供たちであるわけですから、教育のソフト面を私ども教育委員会としてどうやって保証していくのかというのが一番大きいと思っております。今説明を申し上げたような重点的な取組を展開しながら新たな課題等々についてはきっちりと向き合っていく中で対策を講じていきたいと思っております。教育にかかわる予算については格別に措置していただいているということはさまざまな方々と話していく中で思います。内容をどう固めていくかということについて、今後、教育委員の皆さんと協力しながら、また市長とも話をしながら進めていくことが肝要と今感じているところです。</p>
<p>議長 (市長)</p>	<p>それでは、私のほうからは、平成27年度からの教員の海外研修について、予算特別委員会でも相当委員から教員の旅行という表現をされておりました。今年度で2年実施しましたが、それをどのような形で現場のほうへ反映していくのかといったところはどうかですか。</p>
<p>教育長 (藤本)</p>	<p>今年度は2年目になりまして、韓国の視察に行ってもらった先生方については、管理職ではなく、意図的に若い先生方にと考えています。そこで学び、実際に見てきたことについては先ほども申しあげましたが、加東市にどう</p>

	<p>広げていくかについては、あなた方をお願いしたいというような思いでやっています。今後指導者にもなっていくかもしれませんが、韓国については、ICTの活用、そして、英語教育について主要なノウハウを全部持っています。シンガポールに次いで。私どもも最初に申し上げましたように、中学3年を卒業するころには英語を臆せず話せるような子供たちを育てたいと思っています。実際に韓国の事例を話しますと、コンビニ等で外国の方が英語で話しているのを聞くと、ほとんどの子供たちがわかるそうです。ところが、実は私個人の話をする、英語でしゃべってこられたら意味がわからないので、できたらその場から逃げたいなというような思いをするわけですが、既に韓国ではそういうレベルまでいっているということなので、これは学んでいく価値が多いだろうと考えていますし、それをどう広げていくかということが今後私たちの課題だろうというふうに思っています。</p>
<p>議長 (市長)</p>	<p>事業を実施する側の話ですが、海外研修について、委員さん方はどんなふうな思いでいらっしゃるのか。</p>
<p>委員</p>	<p>今教育長からも話がありましたが、果たしてそれが結果としていいのか、悪いのかというのはこれからの話であり、研修に行っておられた先生方は発表会で発表してほかの先生方にもそういう話はしておると思うのですが、実際にどう生かされていくかはこれからの課題で、まだ結論に至るところまではいっていないのではないかと感じております。行った成果が今どうかというのは我々もまだわかりかねている段階というふうに思っております。</p>
<p>教育委員長 (大島)</p>	<p>教育の世界は、どうしても言葉でこういうふうに使っています、こういうふうによくなりましたという言い方しかできない部分が多くございます。しかしながら、他市では、議員さんから不登校生が350人ほどいれば、それが10人になり、ゼロになってきたというように、具体的な数字、数値で表せとずっと言われ続けられてきたのですが、数字で表せない部分があるからこそ教育だと思っています。だから、一生懸命取り組んだ結果が、子供たちの成績が伸びるとか、子供たちの人権感覚が劇的に伸びないまでも、子供たちが成長段階にあるわけですから、それが少しずつ実になり肉となっていくといいのではないかなというふうな思いで積み重ねていくのが教育の世界だと思っていますので、達成目標がどうだと言われてもできない部分は一般の皆様方にも理解いただきたいと思っております。</p>
<p>議長 (市長)</p>	<p>小中一貫校、東条地域の開校に向けて準備委員会が設立されて、今動いていただいておりますが、そのことについて教育委員さん方の地域、あるいは保護者とのかかわりといったところはどのような感じでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>全体の準備委員会が1回、2回とありまして、その場には出席させてもらいましたが、いろんな意見が出ていました。今まで研究会や地域別の協議会に参加されていなかった方もその場に入っておられましたので、認識の程度に若干差異があったというような感じでした。事務局のほうからいろいろ説明してくれましたので、そこら辺の認識はある程度御理解いただいたのではないかなと思います。専門委員会や部会になってからは、それぞれに分かれて協議いただいております、まだ参加しておりませんが、</p>

	<p>どういふ声が出ているのかというところまでは把握していませんが、今日の説明では、部会が来月で全部終わりますので、それを受けて1月に専門委員会を開いて、なおかつその専門委員会で議論いただいたものを全体の準備委員会にかけてもらって、準備委員会のほうで最終的な取りまとめということになると思います。まとめていただいて、どういふ状況かというのを教育委員会の定例会議で報告をいただき、その中でまた議論をさせていただきたいなというふうには思っております。ただ、個々に委員から今の中学校の部分も活用するというのが基本に入っておるようですから、例えばもう少し大きなものにしてほしいとか、体育館が今のままでは手狭ではないとか、グラウンドももう少し活用できるようにできないかというよういふ声は準備委員会のときにも出ておりました。そういう声が多分部会の中でも結構出ているのではないかと思いますので、全て皆さん方それぞれがおっしゃったようには難しい部分もあろうかと思っておりますけれども、全体の準備委員会の中でももう少し議論をいただけたらなというふうには思っております。</p>
<p>議長 (市長)</p>	<p>今まで委員さんのほうから体育館について質疑が出たときはどのように回答しているのか。</p>
<p>教育部長 (堀内)</p>	<p>中学校の体育館については、委員さんが言われたとおり現状の体育館を生かすのは、余りにも遠過ぎるし、また生徒の動線からいっても難しいし、配置的には問題だという話がありましたので、その辺もひっくるめて検討させていただきます。敷地的に体育館を下へ持っていっても可能な面積ではありますというふうなことでは準備委員会では答えております。</p>
<p>委員</p>	<p>私も、東条地域小中一貫校の準備委員会の9月の会議に参加させていただきました。凌風学園の見学に行かれた後で、初めて会議に参加される方の意見を聞きたかったので行ってきました。皆さん、やはり施設を見てよかったと言われる方がほとんどで、いいものをつくろうという気持ちでいっぱいでした。どこかの区長さんが、やはり子供たちが生活するのだから、子供たち目線で考えるのがいいのではないかということをおっしゃったので、親たちやつくる側だけの思いではなく、子供たちの意見もどこかで聞いてあげたらいいと思いました。</p>
<p>参事兼 学校教 育課長 (登)</p>	<p>開校準備委員会や部会でもそういった意見をいただいております。具体的には、東条地域にふさわしい、地域性に合ったシンボルとなるような学校になってほしい。子供に外観であったり、色であったりというようなアイデアを募集してもいいのではないかという意見です。ただし、こちらが教育的配慮として、例えば低学年が生活しているフロアと、9年生が生活するフロアというのは階段の段差の高さも変わるわけですが、そこに気づく子供たちはそれほどいないだろうと思っております。先ほど委員がおっしゃったように、地域の人、教員も、子供も一緒になってつくった学校というプロセスが一番大切だろうと思っております。今校長会等で話をしていますが、実施設計や基本設計がある程度描けていったときに、生徒会や児童会に示して、色やシンボルをどこに置くかとか、校章をどこにしようというよういふところは子供なりの目線で意見をいただきたいなということで調整しています。</p>

教育委員長 (大島)	教育総務課副課長、開校準備委員会等いろいろな会合に出ておられて、何か感じることはありませんか。
教育総務課副課長 (柴崎)	11月で3回の部会を開催させていただき、1回目はいろんな意見がありました。ある意味後ろ向きの発言というものもあった部分は確かにありました。しかしながら、11月の会議におきましては、委員の皆様はほとんど前向きな状態で話し合っていたいております。ですので、4回目は来月になりますけれど、いい状態の案になるのではないかとという感触があるということをお報告させていただきます。
教育委員長 (大島)	第1回の準備委員会のときに私は感動したのですが、するのであれば、日本一の学校にしましょうという意見がありました。ああいう意見が出るということは、一旦やろうと決めたのだから日本一の学校にしましょうということになって、ああいう意見が出したら勝負は早いなと思いました。あの言葉には感動しました。
委員	私は東条地域の準備委員会にはまだ行ったことがないのですが、東条地域の方々がいろいろ考えて準備されたらいいと思いますが、教室などの設計というのは保護者もですが、基本学校の中というのは先生方が一番よく知っていらっしゃると思いますので、今日の教育委員会定例会議でも先生を3名招いて説明されたようなことを言われてましたけれども、保護者は見かけとかを見るのではないかと思います。先生は学校の中のどこが危ないか、どこがいいというのはよくわかっていらっしゃると思うので、教室の中のことは先生の意見をよく聞いてつくり上げていけばいいのではないかと思います。先ほど子供の意見も聞いてということもありましたが、子供の意見は参考にする程度で、やはり先生と保護者の目線で設計していくのが私にはいいのではないかと考えております。
議長 (市長)	他にございませんか、よろしいですか。 〔「なし」と呼ぶ者あり〕
議長 (市長)	それでは、協議としまして、教育大綱における各施策の取組状況ということで御説明申し上げ、いろいろ御意見を賜りました。小中一貫校の整備については、先ほどから言っておりますように、まず東条地域で開校することによって東条地域の皆さんに一生懸命取り組んでいただいております。それから、発達サポートセンターも来年度の開設に向けて取組を進めております。委員さんからもその都度またいろんな面で御指導、御協力を賜りたいというように思います。 一旦、協議はこれで終了させていただきます。その他の項目もないようでございますので、1時間少々というような会議になりましたけれども、本当に多くの意見を賜りました。今申し上げましたように、これからも精いっぱい子供たちのためということでお互いにそういった思いを持って取組を進めていきますので、是非御協力いただきますようお願い申し上げます。閉会とさせていただきます。ありがとうございました。

事務局	<p data-bbox="359 190 534 224">5 閉 会</p> <p data-bbox="359 268 1356 369">それでは、以上をもちまして平成28年度第2回加東市総合教育会議を閉会とさせていただきます。慎重に御協議いただきありがとうございました。気をつけてお帰りください。</p> <p data-bbox="710 414 1005 448">午後6時17分 閉会</p>
-----	---